



先生教えて！ 家庭菜園 はじめての一步

京都府立桂高等学校 教諭
前口 良太郎
第14回

抜群の 利尿効果を持つ、 みずみずしい 味わいの夏野菜 キュウリ

cucumber(英) *Cucumis sativus*(学)

- ① 胡瓜—胡(西域)から伝えられた瓜という意味
 - ② 黄瓜—完熟した実が黄色くなることに由来(漢)
- ウリ科 キュウリ属



「Vロッド」はウイルス病に強く、
もちのよい家庭菜園向き品種(白
いぼ系)。

キ ユウリはインドのヒマラヤ山
麓が原産とされています。中

国は紀元前2世紀ごろに伝わり、
10世紀ごろには日本へもたらされて
江戸時代以降に本格的に栽培される
ようになりました。現在では温帯地
域を中心に、世界各国で栽培されて
います。また、ハウス栽培の普及に
より、日本では年間を通して生産さ
れていますが、本来の旬は5〜9月
です。

キュウリは果実の95%は水分で、
栄養的特徴も少なく、どちらかとい
えば歯触りや味覚を楽しむ野菜です。
昔から「体を冷やす」といわれて、
夏場の食欲を促進する効果がありま

POINT 1 品種を選ぶ

す。さらに利尿作用を持ち、むくみ
を取るともいわれていて、生食、漬
け物、煮物とさまざまに利用されて
います。また、お酢やドレッシング
など酸味のあるものをつけて食べる
と、キュウリに含まれるアスコルビ
ナーゼという酵素のビタミンCを破
壊する作用を防ぐことができます。

キュウリにはさまざまな品種があ
り、来歴からは華北(中国北部)系
と華南(中国南部)系に、果実のと
げの色からは白いぼ系と黒いぼ系に、
雌花のつき方からは節成り型と飛び



↑四葉系の歯切れや肉質のよさに、
みずみずしさを加えた夏秋栽培用
キュウリ「シャキット」(四葉系)。

節型などに分けられます。私たちが
普段見慣れている白いぼ系の「Vロ
ッド」「夏すずみ」「夏ばやし」や、
そのほかに果実の表面がゴツゴツと
した四葉系の「シャキット」などが
あります。
露地栽培には二つの作型がありま
す。ひとつは、晩霜のおそれなく

キュウリの栽培暦(露地栽培)

	2月	3	4	5	6	7	8	9	10	11
露地 早熟			◎	×						
露地 抑制				◎	×					

◎: タネまき —: 育苗期間 ×: 定植
—: 栽培管理時期 ■: 収穫時期

なった4月中旬ごろに苗を植え付け、6～8月に収穫する早熟栽培で、もうひとつは、6月ごろに苗を植え付け、8～10月に収穫する抑制栽培です。秋作のことを考えると早熟栽培がおすすめです。

POINT 2 畑づくり

キュウリは通気性や水はけがよく、保水力のある土を好みます。また、土壌酸度は弱酸性（ $\text{pH}5.5 \sim 6.8$ ）の範囲がよいとされています。定植予定日の3週間ほど前に、 1m^2 当たり苦土石灰を軽く2握り（ $120 \sim 150\text{g}$ ）まいて深く耕し、粗起こし（ pH 調整）を行います。さらに堆肥をバケツ1杯（およそ 3kg ）ほどすき込んでおくとういでしょう。キュウリの根は浅く横に広がりやすいので、深く伸びるように、畝の表面から 10cm くらいはていねいに碎土してやります。

定植予定日の1週間ほど前に、施肥を行います。施肥量は畑の状態、前作、栽植密度、品種などによって異なりますが、目安としてはキュウリを栽培するのに 1m^2 当たりチッソ $35 \sim 40\text{g}$ 、カリ 30g 、リン酸 $25 \sim 30\text{g}$ くらいが必要となります。このう

ち半分は元肥として施します。市販の化成肥料だと、 1m^2 当たり2握り（ $150 \sim 200\text{g}$ ）くらいになります。元肥を全層に施し、 $1 \sim 1.2\text{m}$ の畝を立てた後、地温を上昇させ、泥はねや乾燥を防止するなどの目的で、黒のポリエチレンフィルムによるマルチングを行います。

POINT 3 タネまき・間引き・定植

1条植えとし、株間は、側枝の発生が少ない節成り型品種では $40 \sim 50\text{cm}$ 、飛び節型品種なら $60 \sim 70\text{cm}$ くらいとします。間隔をあけて $2 \sim 3$ 粒ずつタネをまき、 1cm 程度に覆土を

します。ウリバエの幼虫の被害を防ぐため、上に砂かわらを敷き、十分に灌水しておきます。遅霜の被害を避けるためには、ホットキャップをかぶせておけばよく、発芽も促進できます。

本葉が出てきたら2株にし、本葉が3枚になるころに1株に間引いて、発育のよい株を残します。間引く際は、残す株の根を傷めないように、杯軸を地際からハサミで切り取るか、残す株の根元を手で押さえて、株元の土が浮き上がらないようにします。間引き後は必ず灌水して、株元を落

ち着かせておきます。育苗する場合は定植予定日の30日

ほど前に 9cm ポットに市販の培養土を入れ、間隔をあけて $2 \sim 3$ 粒ずつタネをまきます。十分に灌水した後、乾燥を防ぐために上から新聞紙をかけておきます。発芽適温は $25 \sim 30^\circ\text{C}$ なので、家庭で育苗する場合は屋内などの暖かいところで管理してください。3日ほどで発芽しますから、発芽したら新聞紙を取り除きます。発芽後しばらくは、昼は 25°C 、夜は $15 \sim 18^\circ\text{C}$ で管理します。生育するにしたがって徐々に夜温を下げていき、定植前には $12 \sim 15^\circ\text{C}$ にしてやります。家庭では昼は窓際に、夜は暖かな部屋に移動すればよいでしょう。

キュウリ畑



↑キュウリは通気性と水はけがよく、保水性のある土を好む。

生育中のキュウリ株



苗づくり



↑乾燥を防ぐためポット苗の上に新聞紙をかけるとよい。

乾燥させないように...

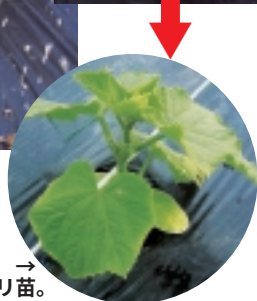
←発芽したばかりのキュウリの苗。



定植



↑キュウリの根は細く、再生力が弱いので、根鉢を崩さないように注意して植える。



定植したキュウリ苗。

支柱立て・ネット張りの手順



1

↑畝の両端の中央に支柱を立てる。



2

←片一方の支柱の上下に、畝の長さより長めのビニール紐を結び、この紐にネット上下に当たる輪を通す。



3

↑上下それぞれのビニール紐を反対側の一番端の支柱に結び、カーテンのようにネットを広げる。支柱をおよそ2 m 間隔でまっすぐに立て、それにネットを通していく。



→順序よく通さないと絡まってしまつので注意



4

↑その支柱に補強用の支柱を斜めに2本立て、最上部に1本、横向きに入れて、この時支柱をネットに通していく。



5

←ネットがばたつかないように、支柱とネットをビニール紐で結んでおく。

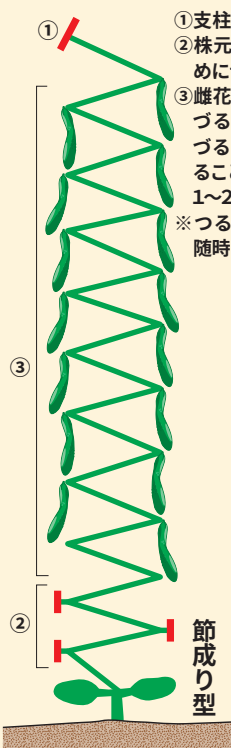
間引きについては前述の直まき栽培と同じです。続いて本葉が2〜3枚になったところに定植を行います。キュウリの根は細く、再生力が弱いので、根鉢を崩さないように注意しながら植え付けてください。また、育苗期間に水を与えすぎると徒長してしまうので、過湿にならないように気をつけましょう。

接ぎ木：園芸店で、カボチャに接ぎ木された苗を見かけることがあります。接ぎ木苗を利用すると土壌病害の予防ができ、低い地温でもよく生長するのでおすすめです。しかも、特定のカボチャにキュウリを接ぎ木したものであれば、キュウリ果実の表面にふく白い粉（ブルーム）が出なくなり、緑色が濃く、光沢のあるキュウリを収穫することができます。接ぎ木の方法としては、よび接ぎとさし接ぎが一般的です。



第1図 整枝法(節成り型)

- ①支柱いっぱい親づるを摘芯。
 - ②株元の3節につく子づるは早めに切除。
 - ③雌花のついたところからは子づるはほとんど出ないが、子づるを伸ばして実をつけさせることもできる。その時は、葉1〜2枚で摘芯(孫づるも同様)。
- ※つるが垂れ下がらないよう、随時ネットに誘引。

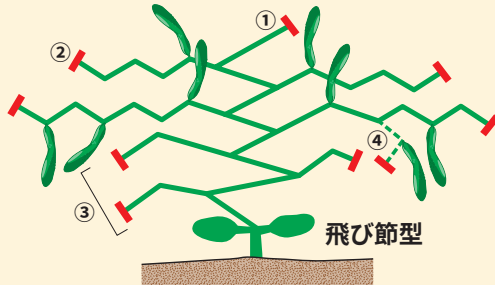


下葉かき(摘葉)



第2図 整枝法(飛び節型)

- ①親づるは8節で摘芯。
 - ②生育のよい子づるを4本伸ばし、それぞれの子づるを支柱いっぱいの高さで摘芯。
 - ③株元の3節は早めに摘芯。
 - ④孫づるは葉を2枚残して摘芯。
- ※つるが垂れ下がらないよう、随時ネットに誘引。



←親づるは支柱いっぱいまで摘芯

→子づるは葉を2枚残して摘芯

摘芯(節成り型)

飛び節型

→子づるは2節で摘芯

POINT 4 支柱立て・誘引・整枝・摘葉

POINT 4 支柱立て・誘引・整枝・摘葉

本葉が3枚になったころ、支柱を立て、キュウリネットを張ります。

支柱は市販されている直径16mm、長さ2・1mくらいのものがよいでしょう
〔支柱立て・ネット張りの手順〕参照。

整枝方法にはいろいろありますが、そのうちの二つをご紹介します（第1・第2図参照）。

葉が込み合ってきたら、株全体によく日光が当たるように、古くなった葉を摘み取ってやります（摘葉）。

葉が込み合ってきたら、株全体によく日光が当たるように、古くなった葉を摘み取ってやります（摘葉）。

POINT 5 追肥・敷きわら・灌水

直まき栽培の場合は、1カ所1株に間引いた後、株間にマルチの上から穴をあけて、化成肥料を1㎡当たり軽く1握り（60〜70g）施します。

その後は直まき栽培、移植栽培にかかわらず、2週間を目安に同量の追肥を行います。この時、施肥溝をつけると根が切れやすいので、畝の肩に穴をあけてそこに施肥を行う方がよいでしょう。400〜500倍の液肥を追肥とし、水やりを兼ねて与えてもかまいません。

また、巻きひげが細く、上に向かってまっすぐ伸びていない時や、雌花の咲いている角度が水平以下にな

っている時、変形果が多い時は肥料不足が考えられます。植物の状態を見ながら追肥を行っていくことも大切です。

梅雨明け後は地温の上昇を抑えるために、マルチの上にわらや枯れ草を敷き、根の生育を促してやります。

また、キュウリは葉が大きいので蒸散量が多く、乾燥期には水分不足になりがちです。そこで、夕方は畝間に灌水を行い、畝の乾きを防いでやります。

POINT 6 注意したい病害虫

キュウリは比較的病虫害が発生しやすいので、抵抗性品種や接ぎ木苗を利用し、予防的に薬剤散布を行う



↑タネまき後70日くらいで収穫できる。重さ100g、長さ20cmくらいが収穫の目安。

POINT 7 収穫

ようにしてください。アブラムシ、ウリハムシなどの害虫、べと病やうどんこ病などが発生した場合は薬剤散布により早期駆除を行います。また、病葉を取り除き拡大を防ぐことも大切です。

タネまきの70日後くらいから収穫が始まります。雌花は受粉しなくても果実になり（単為結果）、開花後7〜10日もすると収穫することができます。収穫する果実の大きさは品種によって異なりますが、重さ100g、長さ20cmくらいになったものから収穫していきます。

キュウリは1日でも収穫が遅れると、巨大な果実になってしまいます。こうなると株を弱らせ、その後の収穫量の減少につながるのです。収穫は

毎日行い、生育の早い時期は朝夕2回収穫した方がよいでしょう。収穫は2〜3カ月くらい続けることができます。

雌雄異花：キュウリの花は雌雄異花ですが、花芽分化後しばらくの間は両性花として発達します。雌花になるか、雄花になるかは発達の途中で品種の遺伝的性質や環境条件などにより決まります。例えば雌花は、夜の温度が低い（13〜18℃）時や、短日（日長8〜12時間）条件下で着生しやすくなります。そして、雌花になる花は子房が発達し、雄花になる花は雄しべが発達していきます。ただ、なかにはどちらになるのか決めかねる花もあり、それは何ともいえない果実となります。

←雌花になる花は子房が発達する。
←雄花になる花は雄しべが発達する。



どちらともいえない果実



雌花か雄花かは環境条件によって決まるんだ。



みんな間違えて大きく育った？ 失敗は成功のもと！

「先生、オレのゴーヤすごく収穫しにくいねん」と生徒が言い出しました。何のことかと畑に出てみると、キュウリネットをしておいたはずのゴーヤの一部が、地面をはってしまっています。理由は簡単。支柱をしっかりと組んでいなかったからです。

キュウリネットを張ったり、支柱を立てたりする場合は「十分すぎるかな？」と思うくらい頑丈につくってください。悔えることなく、植物は結構重いものです。油断していると支柱が曲がったり、

キュウリネットが地面まで垂れ下がったりします。さらにこれに風の力が加わると、その加重は並大抵のものではありません。台風がくると、いとも簡単に倒れてしまうのです。

倒壊したゴーヤネット



↑ネットを張ったり支柱を立てたりする時は、十分すぎるくらい頑丈につくることが大切…。

先生、これでいいかな？



まだまだ、それじゃ風に負けちゃうぞ。

キュウリの変形果

水分や肥料、日光の不足、極端な気温の変化などの不良環境によって草勢が低下し、いろいろな形状の果実が発生します。多少の曲がりや変形は味に関係ありません。

■曲がり果

果実がまっすぐ伸びずに、曲がって伸びてしまった果実のこと。

■尻太果

花のついてた方が太くなっている果実。タネありの果実（受精した果実）が草勢の

弱い時になりやすい。

■尻細果

花のついてた方（尻）が細くなっている果実。草勢が強い場合や、タネなしの果実（未受精の果実）が草勢の弱い時になりやすい。

キュウリの結果習性

■節成り型

主枝の低い節位にいくつかの雄花をつけ、途中からすべての節に連続して雌花をつける型。主枝からの収穫が多いので主枝型ともいう。

■飛び節型

節によって雄花をつけたり、雌花をつけたりするもの。側枝からの収穫が多いので側枝型ともいう。家庭菜園向き。

■単為結果

受精しなくても果実ができることをいう。普通はタネなしとなる。単為結果には花粉やそれにかわる物質の刺激によって、受精せずに結果する他動的単為結果と、花粉やそのほかの刺激なしに結果する自動的単為結果（キュウリ、バナナ、イチジク、ブドウ）とがある。

「これだけは知っておきたい」 園芸用語の基礎知識

キュウリの変形果



←右から、正常・曲がり・尻太・尻細。